

第 2 学年 図画工作科 学習指導案

本時の主張

子どもたちが大好きなシャボン玉。そのシャボン玉に色を付けてみたら……。わくわくするような活動の中で，できた泡の模様や色を基に感じたことや想像したことを伝え合い，一人一人のつくりだす世界をさらに豊かなものへと広げていけるようにする。

1 題材名 「ふわふわ ぶくぶく」 ～色シャボン水を使って～

2 題材の目標

色シャボン水を画用紙にたらし模様をつくることを楽しみながら，できた形，色，模様から想像を広げて思い付いたことを絵に表すことができる。

3 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
色シャボン水を用いていろいろな表し方を試しながら，好きな形や色などを見付けて思いのまま表すことを楽しもうとしている。	色シャボン水の泡でできた画面から感じたことや想像したことを基に，表したいことを見付け，表したいことに合わせて表現方法を考えている。	色シャボン水の形や色，模様などの面白さを見付け，描画材料などを選び，自分なりに楽しい表し方を工夫している。	自他の作品に込められた思いや表し方について，感じたことを伝え合っている。

4 題材と指導の構想

(1) 児童の実態について

明るく素直な子どもたちで，図工の時間をとても楽しみにしている。絵をかいたり，ものをつくったりすることに進んで取り組める子どもがいる。

一方で何をかいたらよいか決められない，想像力を働かせてかくことが苦手，集中力が続かないため，作業が雑になってしまう子どももいる。そのような子どもは，思ったことや感じたこと，想像したことを絵に表しても表現が幼かったり，自分なりに表現することができなかったりする。

また，他の子どもにかかわる姿（作品を見る，真似をする）もあまり見られないことが多い。

(2) 題材について

本題材は，学習指導要領の次の内容を受けて設定する。

A表現（2）

ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見つけて表すこと
[共通事項]

ア 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと

本題材では、色シャボン水の泡を紙に写し取り、偶然できた模様から想像を広げて絵に表すことをねらいとしている。クラスの子どもたちは、シャボン玉が大好きで全員がシャボン玉で遊んだ経験をもっている。シャボン玉の虹色に光を変えながらふわふわと飛んでいく美しさと、触れるとぱちんとはじけてしまうはかなさも知っている。しかし、その色シャボン水の泡を紙に写し取ることは初めての経験である。

そのため、大きなシャボン、細かなシャボン、つながったシャボンを写し取っていく行為は、子どもたちの興味、関心を引くに違いない。

そこで、色シャボンの模様づくりで楽しさを十分に味わう中で、形の面白さや色の美しさに気付き、想像の世界を広げながら絵に表す活動へとつなげていくことができるものと考え、本題材を設定した。

また、友だちとできた形、色、模様について想像したこと、感じたことについて意見を交換したり、グループ内で色シャボン水を交換したり、自分の作品を紹介し合ったりすることにより、想像の世界をさらに広げて活動を深めていく。

(3) 指導の構想

① 材料と十分にかかわる

材料（シャボン）の特徴を知るために、シャボンに十分に触れる時間を設ける。色を考えたりシャボンでできる形を考えたりしながら、楽しく活動できるようにする。また、偶然できた形や重なりで広がっていくシャボンの模様から、いろいろな世界が広がっていくことをイメージしながら活動させる。

また、活動を十分に楽しめるように、シャボンを写し取る用紙は、質や大きさ、色等を自由に選択できるようにし、シャボンの色と用紙との組み合わせに目を向けるように働き掛けていく。

② 見立て遊びを行い、活動の見通しをもつ

最初にできた模様の形や色に関心を持ちながら見立てを行い、さらに意欲をもって色シャボンで模様づくりができるよう、色の重なりや模様の大きさ、配置などのポイントを明確に示す。

「かくことが決まらない、どうかいたらよいか分からない」原因に、体験不足や発想力・想像力が働かないこと、予想図やイメージがとらえられないことが考えられる。そこで、最初は一斉指導を行い、みんなで見立て遊びを行った後、話し合ったり、考えたりしながら、作品の完成に向けて見通しがもてるようにする。

③ 発想したこと、想像したことを伝え合える学習形態の工夫

一斉指導後、子どもたちを2～3人のグループに分けて活動に入る。グループでの活動は、友だちの作品のよいところを真似したり、することを見たりしながら、さらに想像を広げたり、新しい技法を知ったりするよい機会になると考える。

グループは、発想・想像力の豊かな子ども、発想が乏しい子どもを一緒にして意図的に編成する。

5 題材の指導計画（全4時間）

時	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	評 価				
		関	発	創	鑑	評価規準
1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 色シャボン水を画用紙にたらしながら、手がけるほどに形や色が変わっていく面白さを楽しみ、新たな出会いや発見に関心をもとうとする。 ・シャボン玉遊びをする。 ・絵の具を入れてシャボン水をつくる。そこにストローで空気を吹き入れて泡立たせたものを画用紙にたらし、泡のできる模様づくりを楽しむ。 ○ シャボンの色や表し方を自分で選んだり、様々に試みたりして思いのままに表す。 ・様々なシャボンの模様を工夫して表し、何枚か繰り返して試みる。 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・色シャボン水を画用紙にたらししてできる模様の面白さを見付けている。 ・シャボンの色を変えたり、模様の面白さが表れるような泡の置き方を工夫して表している。
3 ・ 4 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ シャボンの泡のできた画面の感じから想像を広げ、表したいことを見付ける。 ・見立て遊びを行う。 ○ シャボンの好きな形や色、偶然できる模様の面白さなどを見付け、描画材料を選びながら楽しい表し方を工夫する。 ・できたものの中から気に入ったものや偶然できた模様の面白さなどを自分の感覚で選び、その画面からお話をつくったり想像したりしたことをカラーペンやクレヨン、コンテなどで書き足し、思いのままに表す。 ○ 自分たちのシャボンを使った表し方の面白さを発見し、想像力のよさなどに関心をもって見る。 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろ試した中から使ってみたい画用紙を選び、表したいものの想像を広げている。 ・様々に工夫してできたシャボンの色や形、偶然にできた模様の面白さなどを見付け、それに合う描画材料や表し方を選んで表現している。 ○ 自分たちのシャボンを使った表現の面白さや想像して表したことのよさを見付けている。

6 本時の学習（全4時間、本時3・4時間目）

(1) 本時のねらい

シャボンの好きな形や色、偶然にできる模様の面白さなどから表したいものを考え、友だちとのかかわりを通してさらに想像を広げ、楽しく表すことができる。

(2) 本時の構想

はじめに、前時までに行ったシャボンの模様の見立て遊びを行う。見立て遊びを行うことによって、自分では気付けなかった見方や感じ方を知り、みんなで話し合うことにより、活動への見通しをもたせる。

一斉指導後、グループの学習形態をとる。グループ内でも、できた模様についての見立て遊びを行う。自分の見立てを発表した後、友だちからも考えをもらい、イメージをより広げられるようにする。

イメージをもった後、かき表す際の描画材料として、子どもたちにとって身近なクレヨンのほか、絵の具やコンテ、発色のきれいなカラーペンを用意する。自分がかき表したいこと・自分の感覚に合った材料を自由に選択できるようにする。

今までの授業を振り返ると、すぐに個々で活動に入っていたが、「かくことが決まらない」「どうかいたらよいか分からない」といって手の止まる子どもがいた。グループに分かれて活動を進めていく中で、迷った時や困った時に、近くの友だちに相談をしたり、気に入った技法があれば真似をしたりできるようにする。一人で黙々とかいていくのではなく、わいわい言いながらかいていく中で、一人一人に楽しい世界が広がっていくことを期待する。

(3) 本時の展開と評価

学習内容・活動 (分)	主な教師の働き掛けと児童の反応 ◆支援の方法	・指導上の留意点 ◇評価【評価方法】
<p>1 前時までにはできたシャボンの形や色・模様を基に、みんなで見立て遊びをする。</p> <p>＜一斉学習＞ (7分)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>2 ＜グループ学習＞ グループ内で、模様から見えるものを発表し合う。 (8分)</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">いろいろなシャボンの模様ができましたね。この模様は何に見えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色・模様から想像したこと、感じたことなどを自由に話す。 C：もくもくしているから雲みたい。まわりに線をかいてみよう。 C：小さな穴があいているから蜂の巣かな。蜂や赤ちゃんをかいてみたいな。 C：シャボン玉いっぱいの世界になりそう。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の模様は何に見えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループになって、互いに何に見えるか発表し合う。 C：恐竜みたい。 C：お花畑みたい。 C：〇〇さんのは、木に見えるよ。 C：空にいるみたいだよ。 <p>◆イメージが広がらない場合は、思い付いた子ども(1～2人)に発表させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な角度で見たり少し離れて見たりして、見立て遊びができるようにする。 ・一～二つ程度、実際にやって見せながら模様にかき足して絵に表していくことを確認する。(輪郭をかく、着色する、周りにかき足すなど) ・始めに自分の模様(1～2枚)について紹介し、次に友だちから考えを発表してもらおう。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">◇いろいろ試した中から使ってみてみたい画用紙を選び、表したいものの想像を広げている。 (発想や構想の能力) 【発言】</p>

3 シャボンの形や色

- ・模様を生かしながら表し方を考え、絵に表す。

(60分)

いろいろな見方ができましたね。模様をよく見ると、何かお話や世界ができそうですね。みんなに分かるように絵にかいてみましょう。

- ・自分の表したいイメージに合った描画材料や方法で付け足す。
- ・友だちにアドバイスを求めたり、意見交換をしながら活動を進める。

C：木に花が咲いているみたい。幹を描いていこうかな。

C：海の中だよ。口を大きく開けたくじらもいるよ。

C：海の中には、いろんな生きものもいるよ。もっと、魚や生きものをまわりにかくといいよ。

- ◆イメージが広がらない子どもに、次のように個別の支援を行う。

- ① 話が思いつかない子どもには、一緒に見立てたり、場所をイメージさせたりする。
- ② 模様に付け加えたり、切り取ってもよいこと知らせたりして、その子らしい発想が広げられるようにする。
- ③ 作例を見せ、そこから話の続きを考えさせるようにする。

4 本時の活動を振り返る。

(15分)

後片付け

楽しかったことや頑張ったことなどを振り返ってみましょう。

- ・カードに記入後、カードと作品を机の上に置き、互いに作品を見合う。

C：模様がいろいろなものに見えて楽しかった。

C：水の中の様子がよく分かるように描けたと思う。

- ・描画材料は自由に選択できるように、クレヨンのほか、絵の具やカラーペン、コンテなども用意する。

- ・カラーペンやコンテの発色の様子、線画を資料として掲示する。

- ・対話をしながら、どんな思いやイメージをもっているかを捉え、共感したり助言したりする。

- ・活動が進まない、集中力が無くなってきた時に、グループ同士あるいは、他のグループの作品を見合うように声を掛ける。よい表現方法があったら、紹介する。

◇様々に工夫してできたシャボンの色や形、偶然にできた模様の面白さなどを見付け、それに合う描画材料や表し方を選んで表現している。

(創造的な技能)

【発言・活動の様子・作品】

- ・振り返りカードに記入させる。

- ・時間があれば発表させる。

◇自分たちのシャボンを使った表現の面白さや想像して表したことのよさを見付けている。

(鑑賞の能力)

【カード・(発言)】

